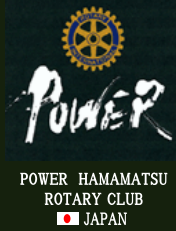


国際ロータリー第2620地区  
静岡第5グループ



# 週報 パワー浜松ロータリークラブ

もう一步前へ！

RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ / 第 2620 地区ガバナー 稲葉雅之 / 会長 加藤恵司 / 幹事 鈴木 亮  
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800  
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp  
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC

よいことのため  
に  
手を取りあおう



Rotary

## 第1054回例会5月26日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間
- 司会：長谷川博久 藤田光弘
- 点鐘：加藤恵司 ■週報：匂坂幸治
- ロータリーソング：「それこそロータリー」
- ゲスト：元ラグビー日本代表選手、  
(一社) Future Innovation Lab 代表理事 五郎丸歩 様

## 出席報告/スマイル報告

会員数 68名 (内出席免除会員 2名)  
出席数 51名 出席率 77.27%

スマイル提出者氏名掲載

- ・未広さくら会員
- ・社会奉仕・加藤会長・鈴木幹事

## 会長挨拶 会長 加藤恵司

おはようございます。

本日は皆さんご存じの五郎丸歩（ごろうまる あゆむ）さんにお越しいただき、「繋ぐ（つなぐ）・育てる・変える」をテーマに卓話をして頂きます。

五郎丸さんが代表理事を務める一般社団法人 Future Innovation Lab が、去年行われた「Iwata seaside DREAM Fes 2025」でこの度「磐田市民賞」を受賞されたとのこと、まことにおめでとうございます。今日はこのお話も聞かせていただけたと思います。

五郎丸様、本日卓話よろしくお願ひ致します。

さて、本日はお二方の入会式があります。

岡三証券と東海東京証券、両支店長さんの転勤に伴う後任の野頭さんと有馬さんの入会式です。

今年度は、これが最後の入会式となります。

今年度は、会員増強の目標をあえて挙げませんでした。

それは、むりやり集めるのではなく、会員の皆様が「今うちのクラブはこんなことやってるんだよ。」って周りに話したくなるような熱量のあるクラブを作っていけば、自然と会員は増えると思ったからです。それがうまくいったかどうか分かりませんが、(多分華岡さんがバンバン勧誘したからだと思いますが) 後半毎月のように新会員をお迎え出来て大変うれしかったです。

本日もよろしくお願ひ致します。



## 幹事報告 幹事 鈴木 亮

- ① 米山学友会より会報が届きましたので回覧いたします。
- ② 本日入会式が行われます。有馬裕樹（ひろき）さんと野津哲也さんです。正式入会は6月となりますが、本日はゲストとしてお越し頂き入会式を開催いたします。



## 委員会報告

### ■出席委員会 武井政倫委員長

- ・25-26（加藤会長）年度も、残例会数4回となりました。
- ・参考に近年（4年間）の出席率推移をまとめました。
- ・今年度、会員皆様のご協力により平均出席率は上昇傾向です。
- ・残り3例会も奮ってご出席いただき、こう出席率を維持頂きたくお願ひいたします。
- ・今期、最終80%を達成したく考えております。



## 入会式

- 会員維持増強委員会 司会：諸星圭吾会員  
新会員  
・野津哲也様 岡三証券浜松支店 支店長  
・有馬裕樹様 東海東京証券浜松支店 支店長



## 議事

### ■ 五郎丸 歩 様

「繋ぐ・育てる・変える」Iwata seaside DREAM Fes2025×社会課題解決  
担当：社会奉仕委員会



### 1. 地方における「経験の格差」への危機感と教育支援

五郎丸氏は、現在、一般社団法人フューチャーイノベーションラボの代表理事として、地方が抱える深刻な課題に向き合っています。人口減少と少子高齢化が加速する中、特に同氏が懸念しているのは、首都圏と地方における「教育・経験の格差」です。地方では子供たちが自ら選択し、挑戦できる場所や活躍のステージが年々削られているという現状に対し、「教育分野での経験の差を埋め、子供たちが輝ける場所を創出する」ことを活動の核に据えています。その実践の場として、磐田市合併 20 周年を記念したプロジェクト「いわたシセイドリームフェス 2025」を立ち上げ、音楽・スポーツ・教育を融合させた大規模な地域振興に取り組んでいます。



### 2. 環境課題の解決と次世代への機会創出

このプロジェクトの特徴は、単なるイベントに留まらず、明確な社会課題の解決を組み込んでいる点にあります。

環境負荷の可視化：パリオリンピックの視察で得た知見を活かし、スタッフウェアへの廃棄漁網回収繊維の採用や、飲食容器のサトウキビ由来素材への変更、運営車両・船舶への電動モーター導入など、徹底した環境対策を実施しました。また、子供たちが半年かけて気候変動を学び、その成果を行政へ提言する教育プログラムを並行して実施しました。

「本物」に触れる機会：地方ではプロの審査を受ける機会が少ないダンス分野において、動画審査を導入することで門戸を広げました。選出された子供たちが、数千人の観客の前でプロのアーティストと同じステージに立つという「一生の記憶に残る経験」を演習地区の子供たちへ提供しました。



### 3. 既存インフラの運用転換による新たな集客と経済効果

五郎丸氏は、既存の施設であるゴルフ場の「運用を変える」ことで、新たな価値を生み出せることを証明しました。通常は 1 日約 200 人の利用に限られる浜松シーサイドゴルフクラブを会場とし、2 日間で約 1 万 1,000 人の動員を実現。特筆すべきは、来場者の 85% が 35 歳以下の女性という、従来のゴルフ場や地域イベントではリーチできていなかった層を呼び込んだことです。チケット単価 1 万円で 1 万人を動員するビジネスモデルの提示は、地方における施設運用の新たな可能性を示すものとなりました。

### 4. アスリートの思考法：ルーティンの言語化による再現性

自身の代名詞である「五郎丸ポーズ」についても言及があり、それは単なる祈りではなく、「結果のバラツキを最小限にするための言語化された動作」であると説明しました。感覚に頼らず、一連の動作を論理的に組み立てることで、大舞台でのスランプ回避や迅速な自己修正を可能にしています。「同じ時間に起き、同じ行動を繰り返すことが事故（失敗）の確率を下げる」というこの思考法は、スポーツのみならず、現代社会やビジネスにおける成功の再現性にも通じるものです。

### 5. ラグビーの精神から学ぶ組織論と品格の継承

ラグビーの「15 人がそれぞれの役割を全うする」組織論は、社会や企業そのものであると説明しています。2015 年の南アフリカ戦で、敗者である相手が笑顔で「おめでとう」と称えてくれた経験や、サモア代表が独自の MVP を選出してくれたことに触れ、ラグビーの本質は「相手へのリスペクトと品格」にあると強調しました。2027 年のオーストラリア大会、そして招致を目指す 2035 年の日本大会を見据え、日本が世界から「品格あるホスト国」として認められるよう、競技の価値を繋ぎ、次世代を育て、地域を変える挑戦を続けていく決意が語られました。

